

比較家族史学会

会報 比較家族史 86

事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F

(株)毎日学術フォーラム内 比較家族史学会 ☎:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555

Email:maf-jscfh@mynavi.jp 郵便振替 00130-4-25222(名義 比較家族史学会)

2026年 比較家族史学会 第78回 春季研究大会のご案内

【日程】 6月20日(土)・21日(日)

【開催校】 追手門学院大学 茨城総持寺キャンパス 新館2階

(〒567-0013 大阪府茨木市太田東芝町1番1号)

【参加費・申込み】 会員対面参加 2000円、非会員対面参加 2500円、

会員オンライン参加(シンポジウムのみ) 1000円、非会員オンライン参加(シンポジウムのみ) 1500円、学部生・院生無料

※ 参加申し込みおよび参加費のお支払いはこちらの Peatix から御願ひ致します。

(6月14日日曜☞切) <https://peatix.com/event/4967378>

【懇親会】 一般 6500円、学生・院生 4500円

※ 非会員のシンポジスト・コメンテーターの方は御招待

○CORAL KITCHEN at garden (高槻市・イタリア料理)

072-686-0335 / <https://coral-kitchen.jp/garden/>

JR高槻市から徒歩3分・阪急高槻市駅から徒歩3分

○懇親会参加希望の方は、学会参加申し込みとは別に、以下から申し込みを御願ひ致します。

(6月14日日曜☞切)

<https://peatix.com/event/4979350>

※ なお、一旦懇親会に申し込まれるとキャンセル・払い戻しが出来ませんのでご注意下さい。

【開催校へのアクセス】 <https://www.otemon.ac.jp/guide/campus/access.html>

○JR 京都線（普通のみ） 総持寺駅 徒歩 10～15 分

※JR 京都駅からは新快速で高槻駅で普通に乗り換えてください（所要 20 分）。

JR 大阪駅からは普通のみです（所要 20 分）。

○阪急京都線（特急・準急等を利用可能）

阪急茨木市駅 バスロータリーから近鉄バス 10～15 分（花園・東和苑行き）

※バスは 20 分に 1 本出ています（追大総持寺キャンパス前下車すぐ）。

阪急総持寺駅から歩くと 25～30 分かかります。

週末には大学へのバス直行便は出ていません。大学に駐車場はありません。

追大シャトルバスは安威キャンパス行きです。お間違えなきようお願いします。

【大会会場】 すべて、新館 [ACADEMIC BASE] 2 階

○一般報告・シンポジウム・総会会場 BNC202

○休憩室 BNC203（簡単な菓子とお茶を用意しています）

○シンポジウム関係者控室 BNC208

○大会事務局控室 BNC204

○理事会 BNC206・207

キャンパスマップ <https://www.otemon.ac.jp/guide/campus/campusmap/soujiji.html>

【開催方法】

○一般報告は対面のみで開催とします。

○シンポジウムは対面とオンラインのハイブリッドで開催します。

○資料は数日前にWEB上で掲載します。紙では配布しません。当日の対面参加者には資料をQRコードでお知らせします。

【ご注意】

○本学会でのハイブリッド開催は初の試みです。ハイブリッド開催により予期せぬトラブルが発生した場合には十分な対応ができませんので、あらかじめご承知おきください。

○討論では、対面参加者を優先させていただきます。オンライン参加者からいただいたご質問・ご意見に対応できない場合もありますので、あらかじめご承知おきください。

○オンライン参加者は口頭では質疑に参加できません。所定のオンライン質問方法をご利用ください。

【昼食】

○大学前に「イオンタウン」があります。イオンスーパー（各種弁当・パンあり）や各種飲食店がありますので、各自で適宜ご利用ください。週末は、大学食堂は開いていません。

イオンタウン茨木太田・飲食店 <https://www.aeontown.co.jp/ibarakioda/gourmetfood/>

○シンポジウム関係者と大会事務局関係者には両日ともお弁当とお茶を用意しておりますので、それぞれの控室でお召し上がりください。

【Wifi】

○学内では無線 LAN が御利用可能です。

○Eduroam をご利用ください。Eduroam をご利用でない方には当日限定のアカウントを会場にてお知らせします。

【保育サービス】

○対面参加のために保育サービスご利用希望の方は、大会 1 週間前までに大会事務局にご相談ください。

【会場校連絡先】

[m-mitsunari★otemon.ac.jp](mailto:m-mitsunari@otemon.ac.jp)

（メールを送信する際には★を@に変えてください）

【プログラム】

6月20日（土） 総合進行 土屋敦（関西大学・会員）

10：00～10：10 会長挨拶 三成美保（追手門学院大学・会員）

10：10～10：13 大会運営についてのお知らせ 三成美保（追手門学院大学・会員）

10：15～11：30 自由報告 司会 宮坂靖子（金城学院大学・会員）

10：15～10：40 報告 1 宋円夢（京都大学・連携研究者・会員）

「一人っ子政策以降の「優生優育」概念の変遷」

10：40～11：05 報告 2 翁文静（東北大学アドミッション機構・特任准教授・会員）

「中国・上海における産後ケアラーの専門職化」

11:05～11:30 報告3 磯部美里（日本福祉大学・教授・会員）・白井千晶（静岡大学・教授・会員）「愛知県篠島における通い婚のプロセスと家族関係の形成」

11:35～12:05 総会

12:05～13:00 休憩 （理事会 BNC206・207）

シンポジウム「LGBTQ+と家族」

第一部 歴史と比較から見たLGBTQ+のリアル

13:00～13:30 第一部総論：家族の変容とLGBTQ+の権利保障：性別二元制と異性愛主義の相対化へ（三成美保・追手門学院大学・会員）

(1) 戦後日本社会におけるLGBTQ+

13:30～14:00 報告 戦後日本の男性同性愛と結婚・家族（前川直哉・福島大学）

14:00～14:30 報告 〈レズビアン〉と同性婚／パートナーシップ制度（赤枝香奈子・追手門学院大学）

14:30～15:00 報告 日本の反ジェンダー攻勢による SOGI 施策の分断線とその影響（神谷悠一・LGBT 法連合会・会員）

15:00～15:15 補論報告 ムスリマとして、妻として、母として：両/全性愛・日本人ムスリマの差別是正に向けた家庭内での実践（梅津綾子・名古屋大学・会員）

15:15～15:30 休憩

(2) 現代アジア・アフリカにおけるLGBTQ+-政治・家族・セクシュアリティ

15:30～16:00 報告 国際社会と伝統的社会のはざまで生きる LGBTQ+: 東アフリカの人びとの苦悩とストラテジー（椎野若菜・東京外国語大学・会員）

16:00～16:30 報告 性的マイノリティを「裁く」法理をめぐる闘争：インドネシアの事例から（岡本正明・京都大学）

16:30～16:45 補論報告 国家、資本、再生産：ポスト同性婚時代の台湾にみる「クィア家族」の形成とホモキャピタリズム（福永玄弥・東京大学=ビデオ出演）

16:45～17:00 補論報告 眼差しの暴力：セクシュアリティ研究と植民地主義批判（保井啓志・同志社大学）

18:00～20:00 懇親会

6月21日(日) 総合進行 土屋敦(関西大学・会員)

第二部 LGBTQ+と家族規範

10:00～10:30 第二部総論：LGBTQ+と家族規範—論点整理(渡邊泰彦・明治大学・会員)

(1) LGBTQ+の家族形成権

10:30～11:00 報告 ノルウェー・スウェーデンにおける性の多様性に関する法制度(矢野恵美・琉球大学)

11:00～11:30 報告 フランスにおける親の脱性化をめぐる議論(小門穂・大阪大学)

11:30～12:00 報告 日本における同性カップルと生殖補助および養子縁組・里親制度(白井千晶・静岡大学・会員)

12:00～12:15 コメント (床谷文雄・大阪大学名誉教授・会員)

(2) LGBTQ+の人権課題と家族

13:15～13:45 報告 家族における多層的不可視性：性的マイノリティの子育ての経験を拾い集める(三部倫子・奈良女子大学)

13:45～14:15 報告 トランスジェンダーと家族主義(高井ゆと里・東京大学)

14:15～14:45 報告 トランス・テンポラリティ：性をめぐる時間の多層性とパートナーシップ(葛原千景・東京大学大学院)

14:45～15:00 コメント (二宮周平・立命館大学名誉教授)

15:00～15:15 休憩

15:15～16:25 全体討論 司会：三成美保(追手門学院大学・会員)＋渡邊泰彦(明治大学・会員)

閉会の挨拶 16:25～16:30 平井晶子(神戸大学・会員)

【共催】

科研費基盤研究(C) 課題番号 24K04511 (研究代表者：三成美保)

【シンポジウム要旨】 三成美保（追手門学院大学）

LGBTQ+の権利保障は、21世紀国際社会及び日本のきわめて重要な課題である。本シンポジウムは、比較家族史学会大会全体シンポジウムテーマとしてはじめてLGBTQ+を取り上げる。全体は二部構成とし、第一部は主に性的指向に関する歴史と比較、第二部は性的指向・性自認（SOGI）に関わる個人の権利と家族規範との衝突・調整について論じる。プログラムについては、できるだけ多様な分野や観点から報告をお願いし、補論報告で最先端のトピックを補うという構成にした。比較家族史学会ならではの学際性を活かしつつ、「家族」の定義そのものを問い直し、未来を展望するという試みの一環である。多くの会員のご参加を期待したい。

【大会運営委員長・委員】

三成美保（大会運営委員長、追手門学院大学）、渡邊泰彦（明治大学）、神谷悠一（LGBT 法連合会）、中島満大（明治大学）、土屋敦（関西大学）、李璟媛（岡山大学）、宇野文重（尚綱大学）

委員会報告

【庶務委員会】

(1) 会員メーリングリストについて

イベント紹介など、皆さんに届けたいことがありましたら、庶務委員までお知らせください（陳予茜先生 chen★rku.ac.jp（★を@に替えて送信してください））。

(2) 会員情報の変更

会員情報に変更がある場合は、学会事務局までご連絡ください。所属・住所などの変更のほか、10年以上継続して一般会員であった方で、70歳以上の方は50,000円を、75歳以上の方は25,000円を納入することにより、終身会員とし、以後の会費の納入を免除しますので、終身会員を希望する場合も学会事務局（maf-jscfh@mynavi.jp）までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

また、会報をはじめ、種々の案内はMLでお送りしています。メールアドレスを変更された場合にも、学会事務局までご連絡ください。

(3) 会費納入

会費未納の方には再度、振込用紙を郵送いたします。本学会は、学会費によって維持されています。学会費が未納の会員については、学会費を納入していただきますようお願い申し上げます。

【企画委員会】

(1) 研究大会の日程について

1. 2026年度春季大会について

上記掲載プログラムの通り、2026年6月20日、21日に追手門学院大学にて開催予定。自由報告は対面での開催、シンポジウムについては対面とオンラインでのハイブリッド開催。

2. 2026年度秋季大会について

2026年10月24日（土）に、オンラインにて開催予定。主催校は東洋大学。

(2) 出版関係

1. 『〈家族〉のかたちを考える 第3巻 家族と暴力』進捗について
現在、編集を進めている。

【編集委員会】

(1) 投稿論文の募集

『比較家族史研究』第41号(2027年3月末刊行予定)の投稿論文を募集いたします。投稿をご希望の方は、学会HP(成果公開)に掲示している投稿規程および執筆要領に従って原稿を作成し、必要事項を記入し、MSWord または PDF で保存した電子ファイルを、2026年8月末までに、下記連絡先まで e-mail 添付で送信してください。

第41号の募集から、字数の計算、章題・節題の様式など執筆要領の一部が改訂されています。

(2) 書評・文献紹介対象書の推薦

書評または文献紹介の対象となる書籍の推薦をされる方は、2026年8月末までに、比較家族史学会事務局(〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル(株) 毎日学術フォーラム)まで著書をお送りください。自薦他薦を問いません。

(3) 投稿等に際しての注意

『比較家族史研究』への投稿者は、比較家族史学会会員であることを原則とします。会員でない方は、2026年7月中に入会申込みをしてください。書評・文献紹介対象書の推薦者についても、同様です。

投稿された原稿(写真・図表を含む)は、掲載の可否に関わらず、原則として、返却しません。書評・文献紹介対象書として送付された著書についても返却しないので、予めご承知おきください。

(4) 比較家族史研究第40号

『比較家族史研究』第40号を刊行し、4月に会員各位に発送しました。もし、お手元に届いていない場合は、下記の連絡先までメールでお知らせください。

【連絡先】編集委員長 渡邊泰彦

e-mail: ywata アットマーク meiji.ac.jp

※アットマークを@に置き換えてください。

【渉外委員会報告】

(1) 〈第15回基礎法学総合シンポジウム〉

2026年は、基礎法学系学会連合と日本学術会議法学委員会が共催する「基礎法学総合シンポジウム」の開催年に当たっています。この学会連合は基礎法学系の六学会（日本法社会学会、日本法哲学会、比較法学会、法制史学会、民主主義科学者協会法律部会、比較家族史学会）で構成するもので、渉外委員会（渉外担当理事）は学会連合の運営に当たる連絡員会議に加わっています。

シンポジウムは隔年で開かれ、法律学の基本概念を基礎法学の立場から再検討することを目指すものです。次回で15回目となりますが、今回の共通テーマは「学術研究の自由と独立性とは何か ―― 歴史・理論・課題」となりました。そこで俎上に載せられるのは、トランプ政権下におけるアメリカの大学事情、大学のガバナンスをめぐるわが国の議論、学問の自由に対する現代日本の大学人の意識といった問題群です。上記六学会からそれぞれ報告者が出ますが、比較家族史学会からは三成美保会員が登壇されます。

シンポジウムの開催日は、7月18日（土）の午後で、オンライン形式で実施されます。プログラムやZoom情報など詳細は、後日改めてまたお知らせします。

理事会議事抄録

2025年12月13日にオンラインで開催された理事会の議事録抄録を掲載します。

1. 庶務委員会

会員情報と会計について報告がなされた。

2. 企画委員会

(1) 2025年度秋季研究大会について報告がなされた。

(2) 新企画（一般向けオンライン講演会（仮称）、若手研究者向けセミナー（仮称））が検討されていることが報告された。

3. 編集委員会

(1) 『比較家族史研究』執筆要領の更新について審議が行われ、承認された。

4. 渉外委員会

(1) 第15回基礎法学総合シンポジウムに関する報告があった。